

7/3 あづ

現行保険証「存続を」

長野 松本市議会、意見書を採択

政府が来年秋に現行の健康保険証を廃止してマイナンバーカードに一本化しようとしている問題で、長野県松本市議会（定員31人）は6月29日、国に「健康保険証」の継続を求める意見書を賛成多数で可決しました。日本共産党市議など有志の人が提出したものです。

共産党などが提出

意見書は、マイナンバーカードをめぐるトラブルが続出しており、健康保険証を廃止すれば窓口で10割負担を求められたり、別人の医療情報に基づく誤った診断や薬の処方がされたりする危険があると指摘。寝たきりや認知症、障がい者など十分な対応ができずに必要な医療を受ける権利が損なわれる恐れがあるとし、「誰もが安心して医療が受けられる『国民皆保険』の土台を揺るがす重大な問題」と強調しています。

起立採決には議長を除く29人が参加。立憲民主党中央議が提案説明し、過半数が賛成。反対したのは公明党4人と3人の保守系議員。

犬飼明美党中央議長は「世論が押していると感じています。引き続き紙の保険証存続に力を尽くしたい」と話しました。松本地区社会保障推進協議会は、「画期的な意見書」が採択されたと評価しています。